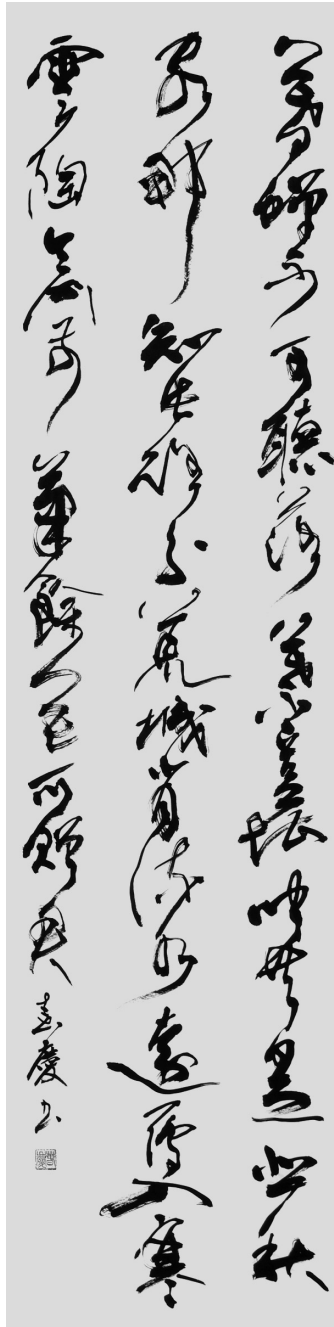


第二十一回 玄和全国競書大会優秀作品



竹花 春慶

審査所感

令和二年は新型コロナウイルス感染症が年頭より起こり、感染拡大により地域でクラスターが発生すると休塾を余儀なくされたところもありました。玄和全国競書大会も二十一回目は開催できるかという難題にぶつかりましたが、審査の先生方には「密」をさげスマートフォンを駆使しての審査をお願いし開催の運びとなりました。例年では丸一日かけての審査でしたが、数日に分けての審査となり審査にあたられた先生方には大変なご苦労をいただきました。

出品点数は前回に比べ学生部に於いては少子化と休塾のおおりもありましたが16%減に留まり、一般部は半紙部26%増、条幅部は5%増という結果でした。コロナ禍により在宅時間が増えたことによる一人あたりの出品点数の増加が考えられるのではないかと思います。

作品内容ですが、学生部低学年は子供らしく元気良く堂々とした作品が目立ちました。高学年になると文字のバランスや線の美しさも要求されますが、学年・名前も作品の一部と捉えてしっかりと書けている作品は高評価でした。中学生は小さい時から習っていた方が多いのか、書写の基本がしっかり身につけており楷書、行書、臨書と幅広く意欲作が多く見られました。高校生は臨書作品を中心に古典

— 玄和書道会賞 —



ボラック麻耶(高三)



菅井 花梨



奥 友里(小三)



崔 賢秀(小六)



稲田飛雄吾(中三)

をしっかりと感じさせるような大人顔負けの作品もあり、日頃の練習量が見えるようでした。一般部は半紙条幅共に漢字、仮名、調和体、臨書作品とバラエティーに富んだ作品群で、半紙は小作品として完成度の高いものも多く、特に仮名作品には書紙にも配慮して色や柄により文字を散らすなど工夫が見られました。条幅作品は毎年ハイレベルな作品が多く見られますが、今回も文字をバランス良く配置して見所のある作品、墨の潤濁で奥行きを感じる作品、また一人で多種類を見事に書き上げた方も多く、その多彩さに驚きました。

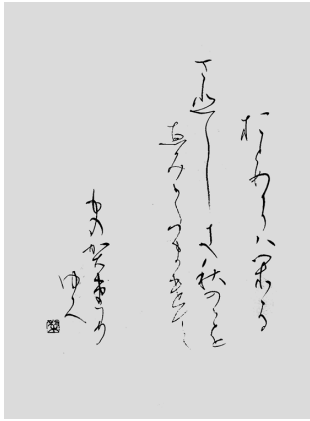
学生部も一般部も活きた線、生命力を感じる線には心が動きます。一線一線に「気」を集中して書いた作品は輝いています。形ばかりに捉われず、ぜひ一線にも気配りをして書作していただけたらと思います。

全ての審査を終えて良質な誌上展になりましたことは、指導にあたられた先生方の豊富な知識と高度な指導力があってこそと心より感謝申し上げます。また出品された皆様、見守られたご家族の方々に厚くお礼申し上げます。

次回も日頃の成果として、ぜひチャレンジしていただきたいと願っております。

第二十一回 玄和全国競書大会
審査委員長 明石 幸子

— 春 浦 賞 —



田中 梨風



遠藤美代子



中村 秀月



鷹松 昂暉(高二)



三谷 梨花(小五)



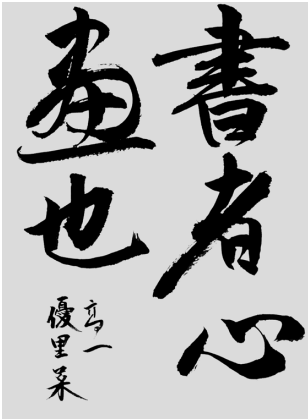
千葉まなみ(中二)



出井 絢菜(小二)



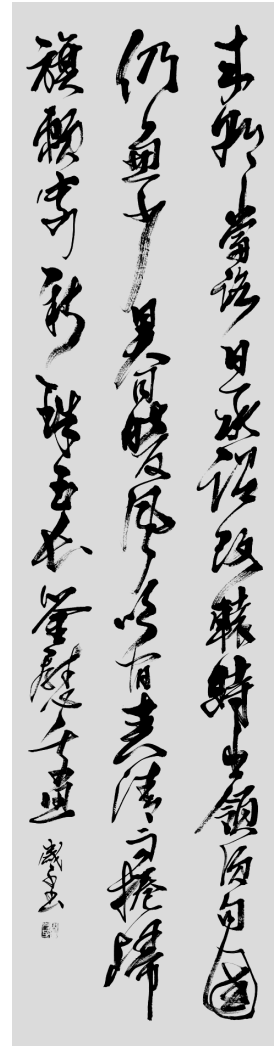
陳 知松



田村優里菜(高一)



近藤 嵐光



山口 歳子



戸倉 凜(小三)



藤田 桜帆(小四)



鈴木 爽良(中一)